目　次

はしがき――本書のねらい

第Ⅰ部　原と大隈のとらえられ方

第1章　原をどうとらえるべきか……3

1　現実政治家原の理念　3

理念を持った現実政治家としての原敬像の形成　理念を持った現実政治家としての原敬像の深まり

2　近年の異質の著作　9

原敬像を混迷させる　原に批判的な新聞・雑誌を安易に使い、重要な点で根拠が不明

第2章　大隈をどうとらえるべきか……15

1　理念の政治家としての大隈像の形成と揺らぎ　15

『大隈侯八十五年史』の影響力　『八十五年史』を克服する試み

2 大隈の実像を考える　20
立憲政治・政党政治への理念は何か　外交論と財政・経済論の一貫性

第Ⅱ部　二人の不幸な出会い――一八三八年～一八九八年

第3章　大隈と伊藤博文との対立の中の原――一八三八年～一八八一年一〇月……27
1 原の成長　27
原と大隈のおいたち　藩閥政府高官となる大隈　ともに薩長藩閥に疎外感を持つ
原が反藩閥意識を早く克服する　原と大隈の目標の差は小さい
2 大隈の反薩長感情の醸成　37
岩倉使節団と大隈の薩長閥への反感　征韓論政変後の大隈の疎外感　大隈の「小さな政府」論の展開　西南戦争以降の大隈の反伊藤・長州閥感情　大隈の大きな賭けと明治十四年の政変

第4章　原と大隈の「接触」――一八八一年一〇月～一八八九年一二月……48
1 伊藤博文人脈の原　48
明治十四年政変と二人　青年外交官の成長　「民」と「官」の大隈　大隈が藩

閣内閣外相に就任
2 大隈に失望する原　56
滞仏延長拒否と大隈への不快感　大隈が原の意向を無視した理由　大隈外相の辞任　大隈の条約廃棄論の真実　冷静な原の眼

第5章　伊藤系人脈につながる原――一八九〇年一月～一八九六年九月……65
1 官僚としての原の手腕　65
陸奥宗光農商相の腹心となる原　第一回帝国議会への二人のまなざし　原の大隈への嫌悪　大隈の「責任内閣」論　原が陸奥と進退を共にする　陸奥外相の条約改正交渉の根幹思想を創る　原と大隈の日清戦争と中国・朝鮮観の類似　日清戦争後の外交秩序観　明成皇后（閔妃）殺害事件の対応を主導
2 政治家としての大隈の成長　81
日清戦争期の大隈の外交論　対外硬派への大隈の姿勢　一八九六年春の佐賀帰省と成長戦略・新しい政治手法　大隈の成功要因と原の反応

第6章　大隈への敵意を強める原――一八九六年一〇月～一八九八年二月……89
1 朝鮮での原の鉄道交渉　89
原の大隈に対する公然とした「敵意」　陸奥外相・小村寿太郎公使による朝鮮への鉄道政策　原公使の京釜鉄道交渉

2　大隈外相と朝鮮の鉄道　96
原の見るように大隈外相は「強硬」か　大隈系新聞と有力他紙はトーンが違う
なぜ原は大隈が「強硬外交」だと思い込んだのか

第Ⅲ部　列強の東アジア進出への対応――一八九八年三月～一九一四年四月

第7章　中国・朝鮮をめぐる危機の中での二人――一八九八年三月～一九〇〇年……105
1　大隈の「小さな政府」・「支那保全論」　105
大隈の政策体系の一応の完成　地租増徴反対の潮流に乗り組閣　なぜ大隈は地租増徴の判断を誤ったか
2　原の「大きな政府」・清国での「権力平均論」　112
大隈をライバルと見る原の政策形成　通商国家論・外交論の類似と原の増税論
大隈への敵対心を昇華した原の政策

第8章　原の台頭と大隈の没落――一九〇一年～一九〇四年二月……119
1　原の立憲政友会掌握への道　119
原の立憲政友会参加と大隈の影　伊藤の食言に即応し通相となる　大隈の無念

政党政治家原敬の誕生　大隈の行き詰まりを見る　過去の人と見くびられる大隈
「輿論」を信じる原の総選挙

2　ともに日露開戦に慎重　131
日英同盟への態度　原の日露非戦論　開戦を煽らない大隈

第9章　日露戦争以降の権力逆転——一九〇四年二月～一九一〇年三月……139

1　原の躍進と大隈の衰退　139
原の政友会掌握　憲政本党総理を辞任した大隈　大隈の文明論と世界平和論
大隈の嫉妬・原の嫌悪

2　大隈を「対外硬」と思い込み続ける　147
アメリカの排日問題に大隈の「強硬策」を見る　なぜ原は大隈を誤解したのか—その1　なぜ原は大隈を誤解したのか—その2　大隈への気持ちに余裕が出た原
中国を見る目の揺れ幅の差　原も大隈も韓国より中国を重視　二人の世界観の根底の類似

第10章　原の予期しない大隈の復活——一九一〇年四月～一九一四年四月……160

1　第一次護憲運動に加担しない　160
大隈復活の兆し　護憲運動に関わりを避ける大隈　護憲運動を利用する原の立場

2　政権獲得を競う二人　167

原の山本権兵衛内閣への態度　政党内閣を目指す原の改革　桂新党に政界復帰の希望を見る大隈　佐賀への大隈の二度目の帰省　大隈を警戒しない原　大隈の組閣への意欲　大隈の元老懐柔と大命降下

第Ⅳ部　第一次世界大戦による秩序変動への対応の違い――一九一四年四月～一九二二年一月

第11章　第二次大隈内閣期の二人の対決――一九一四年四月～一九一六年一〇月……183

1　大隈首相の攻勢　183

大隈の組閣と政友会つぶし　曖昧な政綱を提示する大隈　内政政策での大隈内閣の個性　第一次世界大戦参戦から見える大隈　参戦と「増師」の解決　外務省・陸海軍の欧州出兵問題　大隈らの欧州・中東出兵問題への姿勢　大隈が一枚上手の一九一五年総選挙

2　際立つ原の世界秩序観　202

大隈と原の中国構想の違い　二十一カ条要求の形成　陸軍・加藤外相・大隈首相の責任の比較

3　原の反撃　209

原の大隈批判　大隈・山県の次期政権をめぐる対抗　大隈内閣打倒への原の決断

第12章　原の戦後大変革構想と寺内内閣――一九一六年一〇月～一九一八年九月……217
1　原内閣への道　217
加藤の憲政会創設と大隈　原が総選挙勝利で限界を知る　大戦後を見通す原のヴィジョン形成　原の政権獲得構想　シベリア出兵での原の妥協　政界中枢から浮き上がる大隈　米騒動への原の巧妙な対応
2　老境に入る大隈　230
老いが目立つ大隈　大隈の世界観の限界

第13章　原内閣と戦後大改革――一九一八年九月～一九二二年一月……234
1　組閣をめぐる原と大隈　234
原内閣成立をめぐる大隈の迷走　原主導下で内閣誕生　原への屈折した感情を抱く大隈
2　原内閣の展開　241
対米協調外交の形成　シベリア撤兵と参謀本部統制　新しい積極政策と国防費　鉄道建設など新しい積極政策への原の精神
3　山県を取り込み陸海軍・宮中を統制下に置く　250
普選運動の高まり　一九二〇年に総選挙を行った理由　総選挙圧勝の要因　陸軍と海軍の掌握　宮中・宮内省の掌握　「宝積」の心構え
4　晩年の大隈の世界観・国内観　261

大きく揺れる世界観　労働運動への不安と普選論
5　葬儀での二人の「競いあい」　266
原の暗殺と「盛岡市民葬」　大隈の「国民葬」
終　章　大隈を超えた原……271
共通点の多い二人の対立　なぜ二人は嫌い合い対立していくのか　外交政策の誤解と差異からの対立　大隈の手法を学び、超えた原
参考文献　283
あとがき　289
原敬・大隈重信略年譜　293
人名索引